

# 衣

## 愛知和服裁縫業協同組合

# 着物に関することなら どんなことでも相談

### 女性が多数の職人集団

明治になって洋服が採り入れられると、和裁・洋裁で一つの組合がつくられ、大正の初めにそれぞれの組合が分離独立しました。太平洋戦争が始まると、高級な着物は奢侈品として作ることも着用することもできなくなり、組合活動も休止状態となりましたが、戦後の昭和23年（1948）に組合が復活しました。当時、和裁はそれほど特別な技能ではありませんでした。なぜなら、普段着として着る和服の仕立ては家庭で行うことが、ごく普通だったからです。しかし、留袖や振袖、訪問着といった高級な着物を仕立てるのは昔からプロである職人の仕事でした。愛知県和服裁縫業協同組合の組合員は現在約110人で、その8割は女性です。

組合の重要な活動の一つが、標準加工料を定めて適正な料金設定を行うとともに研修会などを通じて技術レベルの向上を図り、職人の社会的地位の向上に取り組むことでした。というのも仕立て業に携わる人の多くが零細な個人経営で工賃や技術レベルにばらつきがあったからです。



裁縫作業



直しをした着物

### タンスの中は宝の山

成人式や卒業式などで着物を着用する人は増えていますが、その多くがレンタルで、着物が売れない時代になっています。着物を売るのは呉服屋や百貨店などで、そこから仕立てや直しの仕事を受けるのが和服裁縫業です。着物の大きな特徴の一つは仕立て直しができることで、布地に最も負担の少ない（傷めない）日本独特の「横縫い（グシ縫い）技法による手縫い仕立て」を原則にしています。

親から子へ・孫へと何代にもわたって使い続けたい着物、成長により寸法を大きく変更したい着物、シミや汚れ・色ヤケ等もそれに応じた処理を施した上で、仕立て直して甦らせることができます。現在、少子化からくる成人式等の主要な着物需要の縮小等の問題もありますが、先人が残した日本固有の「和服裁縫技術」をしっかり受け継ぐべく頑張っています。

組合は、職人展などのイベント参加を始め、学校で和裁、着物に関する授業を行うなど、着物文化、和の文化を若者などに広く伝える取り組みも行っています。

■職種：和裁士 ■組合設立年：大正3年 ■組合住所：名古屋市北区神明町10

■電話番号：052-919-1568 ■ファックス：052-919-1569 ■ホームページ：http://aichiwasaikumiai.sakura.ne.jp/wp/